# 『９月定例会担当　　成人歯科健診プログラム研修会』

―健康推進委員会担当―

講師　埼玉県地域保健部　渡辺幸男先生

日本歯科医師会・埼玉県歯科医師会は、本プログラムを自院での導入と地域における歯科健診の場面でもより広く応用することにより、歯科のみならず生活習慣病予防を含めた「国民が受けて喜ばれる歯科健診」システムの普及を目指しております。

今回、講師として渡辺幸男先生をお招きいたしまして、本プログラムの実際の進め方をＤＶＤの動画により、ＤＲ・ＤＨと患者さんとの会話、支援の流れを確認しながら、研修会を開催いたしました。

本プログラムは、日本歯科医師会のWebサイト（http://www.jda.or.jp）からダウンロードして、本研修会資料に準じまして使用ができます。

渡辺先生から、『標準的な成人歯科健診　質問紙票２０項目』の説明があり、本健診システムのメリットが

① ＤＨの皆さんが簡単にできること。

② 口腔内を診なくてもできること。

③ 患者さんのデータ２０項目をＰＣに入力しますと現時点のお口の健康状態がカラーのグラフとなり、その場ですぐに問題点や支援方法が説明できること。予防か治療かの説明もわかりやすいこと。

④ 定期的にデータ管理することで、お口の健康状態の維持・増進ができ、８０２０達成に向けリコール率が上がること。

等があげられました。

その結果により患者さんへの支援のタイプ（１～５複数可）

□１．「知識提供・気づき支援型」

□２．「相談・カウンセリング型」

□３．「環境・受け皿支援型」

□４．「実技指導型」

□５．「受動勧奨型」

をご指導いただきました。

そのポイントは、《今までの指導するという考え方よりは、患者さんがその問題に自ら気がついて行動を起こすことに対しての支援》ということです。患者さんが今できる無理のない目標設定を一緒に探して、定期的にフォローして健康教育していきます。指導されるより、ご本人自ら、気が付いて行動を起こすことの方が楽しく受診できますし、その方が継続していくということもわかっ

てきました。歯科医師・歯科衛生士が、押しつけの指導になっていないか？の確認もできます。

また、県下で行われております行政の職域を対象とした健診事業（口腔内は診ません）もご紹介いただき、その結果、健診に満足が８０％、対象者の７０％が自主的に会員の協力歯科医院を受診し、継続的な保健指導・歯科治療を受けたとの報告もいただきました。このようないろいろな職域での応用も今後、歯科医師会としては視野に入れながら、市民の皆さまの生活習慣病予防を含めた口腔保健の維持増進に貢献するスタンスが望まれてきているのではないでしょうか？

渡辺先生には、懇親会にもご参加いただきまして、厚く御礼申し上げます。

また、本会は本年度より、『川越市歯周疾患健診』を実施し始めましたので、８０２０達成型社会の実現に向け、会員の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

【参考：平成２３年度歯科疾患実態調査の結果、８０歳で２０本以上の歯を有する人は３８．３％（平均残存本数１３．９本）また、健康日本２１（第２次）では、２０３５年には子どものむし歯を極めてゼロに、８０２０達成者を５０％にすることを目標といたしました。】

## 『９月定例会担当　子育て支援事業説明会』

埼玉県地域保健部　　岩田夏彦

最近、『子育て支援』という言葉が、よく聞かれるようになりました。川越市も、食育推進計画と併せて子育て支援にも力を入れ始め、土・日には子育て支援相談電話窓口を設置いたしました。親としっかり向き合っての相談となると平日の夜では大変なのかもしれません。本年度から、行政は児童虐待の対策にも本腰となって取り組み、本会からも各種団体（合同）の会合への参加をさせていただいております。

『支援とは指導ではありません』まずは、相手のすべてを傾聴してすべてを認めることから始まります。波長を合わせ、一緒に考えるというスタンスです。支援できる環境づくりが大切であり、支援する側はまずは自分が自立して、相手にはできそうなワクを提示してヒントを与えるという感じの支援となります。

（支援計画の作成とフォローアップ）

行政との支援における連携事業は、１９９０年代にアメリカのフローレンスグリーンさんが提唱したヘルスプロモーション（グリーンさんのグリーンをとって日本ではＭＩＤＯＲＩ事業といいます）の考えが参考になると思います。

今回、県歯の意向によりまして、埼玉県歯科医師会で行っております『子育

て支援事業』を説明させていただき、【実際の診療室等でできる子育て支援のポイント１０】をまとめてみましたので、川越市歯科医師会ＨＰメンバーズルームをお暇なとき、ご覧ください。ご参考までに９月１５日定例会でお話させていただきましたパワーポイントもアップしておきます。院内教育等でご活用いただければ幸いです。

（記　　岩田夏彦　）